

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

令和5年12月
福島県 浪江町

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

令和5年12月時点

1) 事業の実施概要

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	基幹/ 効果促進	事業実施主体	全体事業費 (注3)	全体事業期間 (注4)	年度事業費(注5)					評価実施時期 (注6)	その他
								平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
1	B - 1 - 1	浪江町地域公共施設内アスレチック施設整備事業	浪江町大字権現堂字矢沢町 地内	基幹	浪江町	(756,499) 756,499	H31~R3		(12,775) 12,775	(743,724) 295,920	(447,804) 447,804		令和5年12月	R2→R3へ繰越 入札不調による工事内容の計画 見直しのため
2	◆ B - 1 - 1 - 1	浪江町地域公共施設内アスレチック施設外構等整備事業	浪江町大字権現堂字矢沢町 地内	効果促進	浪江町	(37,718) 37,718	R3~R4				(15,070) 15,070	(22,648) 22,648	令和5年12月	R3→R4へ繰越 前工事の遅延のため
3	B - 1 - 2	浪江町地域公共施設内運動公園等整備事業	浪江町大字権現堂字矢沢町 地内	基幹	浪江町	(544,403) 544,403	H31~R4		(2,145) 2,145	(31,534) 31,534	(451,012) 451,012	(59,712) 59,712	令和5年12月	R2→R3へ繰越 R3→R4へ繰越 入札不調による工事内容の計画 見直しのため
4	◆ B - 1 - 2 - 1	浪江町地域公共施設内運動公園等外構等整備事業	浪江町大字権現堂字矢沢町 地内	効果促進	浪江町	(31,334) 31,334	R3~R4				(12,530) 12,530	(18,804) 18,804	令和5年12月	R3→R4へ繰越 前工事の遅延のため
5	C - 1 - 1	浪江町丈六公園整備事業	浪江町大字高瀬字丈六地内	基幹	浪江町	(442,757) 442,757	H31~R4		(31,546) 31,546	(92,345) 92,345	(124,236) 124,236	(194,630) 194,630	令和5年12月	R3→R4へ繰越 工事の施行に伴い発生した状況 変化のため

2) 事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)

指標	従前値 基準年度	目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)	
		基準年度	目標年度	確認年度	確認年度						
目標1 小学生の肥満傾向児童割合(%)	18.8%	H31	11.0%	R5	10.5%	R5	106%	浪江町教育委員会にて調査	運動施設整備により、子どもたちの運動機会が増加し、肥満傾向児童の割合が減少した。	関係部署で連携し、継続的な運動による肥満解消の重要性やスポーツの楽しさを伝えることにより、整備した施設の利用促進を図る。	B-1-1 ◆B-1-1-1 B-1-2 ◆B-1-2-1 C-1-1
目標2 小学5年生の体力テストの総合判定A・Bの割合(%)	0.0%	H31	100.0%	R5	44.4%	R5	44.4%	浪江町教育委員会にて調査	運動施設整備により、子どもたちの運動機会が増加し、体力テストA・Bの割合が増加した。	関係部署で連携し、継続的な運動による体力づくりの重要性やスポーツの楽しさを伝えることにより、整備した施設の利用促進を図る。目標達成に向け今後もフォローアップを行う。	B-1-1 ◆B-1-1-1 B-1-2 ◆B-1-2-1 C-1-1
目標3											
目標4											
目標5											

3) その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

指標	従前値 基準年度	目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)	
		基準年度	目標年度	確認年度	確認年度						
目標1 屋内施設の利用状況(人/年)	-	H31	15,000人/年	R5	5,152人/年 R5.8現在	R5	34%	利用者数実績調査	令和4年6月の開館から1年が経ち、当初目標を達成していないが、多くの来館者の健康増進への寄与は感じられている。	広報やホームページ、SNSで広報を行い、来場者の増加へつなげるほか、遊具の更新やボルダリングコースの更新などで更なる利用促進を図る。	B-1-1 ◆B-1-1-1
目標2 ふれあいグラウンドの利用者数(人/月)	-	H31	280人/月	R5	269人/月 R5.8現在	R5	96%	利用者数実績調査	屋外運動施設の整備により、子どもを対象とした屋外運動の機会が増加し、児童・生徒の利用につながったが、猛暑等の要因もあり、目標値には届かなかった。	当該施設のさらなるPRを行うとともに、屋内施設と連携しながら、子どもや親子を対象としたスポーツイベントの拡充を図る。	B-1-2 ◆B-1-2-1
目標3 公園の利用状況(人/年) 大人も含む	1,150人/月	H31	1500人/月	R5	1,156人/月 R5.8現在	R5	77%	水道利用量からの推計(4L/人とする)	公園内に遊具を整備することにより、子どもの遊び場としての魅力向上のほか、民間のイベント開催が増えており、今後さらに利用者の増加が見込まれる。	公園施設の維持管理を適切に行うことで施設の長寿命化を図り、安全かつ継続的に利用できるように子どもの運動機会を確保していく。	C-1-1
目標4											
目標5											

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は、定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画に全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1.B-1.2.C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2.C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

個別事業等実績評価シート

令和5年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成31年度～令和3年度	交付対象事業費	794,218千円
市町村名	浪江町	実績評価実施時期	令和5年度	評価対象事業	B-1-1 ◆B-1-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注1, 2)

震災等からの復興と復興計画等の一層の推進を図るべく、帰還後の子どもたちが安心してスポーツを楽しむ環境整備や子どもの運動機会の増加を図り、先人が大切に育んできたふるさと浪江で引き継がれるであろう子どもたちが遊べる環境にすること、子どもたちの体力向上させることを目標とし、子育て世帯の帰還の促進と定住促進を図る。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

平成29年3月31日に帰還困難区域を除く地域で避難指示が解除され、住民の帰還が進む中、放射線の不安により子どもたちが安心して遊べる環境がない状況となっている。そのため子どもたちの運動する機会の確保と、子どもたちが心身ともに健康が保てるよう、屋内遊び場の整備を行う。

① 建物整備内容

・屋内アスレチック施設 979㎡ ・キッズスペース(大型遊具や玩具等設置) ・ボルダリングコーナー

② 効果促進事業

駐車場、植栽、照明等(他事業と按分)

(2) 事業の実施状況

- 工事期間: 令和2年12月16日～令和3年12月28日 ● 令和4年6月18日 供用開始
- キッズスペース 10時～16時30分 ● ボルダリングスペース 平日13時30分～20時 土日祝日10時～17時
- 休館日: 水曜日及び年末年始
- 利用料: 無料
- 施設利用人数 令和4年度 キッズスペース 9,002名 ボルダリングスペース 939名
令和5年度 キッズスペース 4,638名 ボルダリングスペース 514名 (R5.8末現在)

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報

令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末では1,332人)、小・中学校在籍児童・生徒数は小学校38名、中学校24名(平成31年3月末では各21名、5名)であり、不足していた屋内運動施設の整備に伴い、低下傾向にあった子どもたちの体力の維持・回復が図られ、徐々に子育て世代の帰還が進んでいる。

○ 肥満児童(町内小学校での割合)

平成31年度: 16名中3名18.8%→5年度: 38名中4名10.5%

○ 体力テスト(町内小学校5年生でのA・B判定割合)

平成31年度: 2名中0名0%→5年度: 9名中4名44.4%

(4) その他

- <有識者評価> 町の教育委員会と校長会で本事業の評価を諮ったところ、次のようなご意見を頂いた。
 - ・肥満傾向については見た目にも明らかに変わってきており、運動機会の増加の効果が見受けられる。
 - ・こども園の園児や小学生を中心に施設を頻繁に利用しており、今年のような猛暑の夏でも、施設内でのびのびと楽しんでいる。こうした遊びの中から肥満度の改善や体を動かす楽しさに繋がることを期待する。
 - ・ボルダリングにおいては、個人の記録を掲示することで、目標達成感や継続性を高める効果があるので、設置してはどうか。
- <運営側の取組>
 - ・昨年はボルダリングの指導者を招いて安全にチャレンジできる講習会を行った。
 - ・定期的にボルダリングのコースの入替を行い、飽きのこない工夫をしている。



事業計画推進による効果・変化

当該屋内アスレチック施設を整備したことにより、放射線の不安がなく遊べる環境が出来たため、避難児童・生徒の運動機会が拡充し、運動能力が向上した(肥満傾向児童数が8.3%減少)。令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末:1,332人)、こども園・小中学校に在籍している児童数はこども園49名、小学校38名、中学校24名(平成31年3月末 こども園:9名、小学校:21名、中学校5名)であり、徐々に子育て世代の帰還、移住等が進んでいる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)

町広報誌及びホームページ等でさらに周知を行い、利用促進を図っていく。
遊具の更新や、ボルダリングのコース入替を行い、利用者が継続して利用する施設を目指す。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

個別事業等実績評価シート

令和5年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成31年度～令和3年度	交付対象事業費	575,736千円
市町村名	浪江町	実績評価実施時期	令和5年度	評価対象事業	B-1-2 ◆B-1-2-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注1, 2)

震災等からの復興と復興計画等の一層の推進を図るべく、帰還後の子どもたちが安心してスポーツを楽しむ環境整備や子どもの運動機会の増加を図り、先人が大切に育んできたふるさと浪江で引き継がれるであろう子どもたちが遊べる環境にすること、子どもたちの体力向上させることを目標とし、子育て世帯の帰還の促進と定住促進を図る。

【区域全体図】



ふれあいセンターなみえ運動公園

【事業詳細】

(1) 事業概要

原発事故避難から帰還後の子どもたちが安全に運動できる場所として「ふれあいセンターなみえ運動公園」を整備することにより、使用可能な屋外運動施設を確保し、子育て世帯が安心して帰町できる環境を整える。

- ・主要内容 グラウンド整備17,521㎡、防球ネット・照明設備の設置、倉庫・トイレの新築、駐車場整備(効果促進事業)。

(2) 事業の実施状況

令和元年度に実施設計、令和2年度に解体工事及び共同受電設備設置工事(他事業と按分)、令和3年度にグラウンド整備工事等(工期:令和3年8月11日～令和4年3月31日)を完了し、令和4年6月から供用を開始している。

- ・運営時間 年末年始の休日は休場日で、これら以外の日は午前5時から午後9時まで開場。
- ・利用料金 1時間につき800円(高校生以下は400円)のほか、照明設備や放送設備の使用についても有料。
- ・利用状況(令和5年度) 8月末現在、利用者数1,345人(高校生以下32人)、団体利用66件、イベント開催3件

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報

令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末では1,332人)、小・中学校在籍児童・生徒数は小学校38名、中学校24名(平成31年3月末では各21名、5名)であり、不足していた屋外運動施設の整備に伴い、低下傾向にあった子どもたちの体力の維持・回復が図られ、徐々に子育て世帯の帰還が進んでいる。

○肥満児童(町内小学校での割合)

平成31年度:16名中3名18.8%→5年度:38名中4名10.5%

○体力テスト(町内小学校5年生でのA・B判定割合)

平成31年度:2名中0名0%→2～3年度:各1名・3名中0名→4年度:3名中3名→5年度:9名中4名44.4%

(4) その他

<有識者評価>町の教育委員会と校長会で本事業の評価を諮ったところ、次のようなご意見を頂いた。

- ・肥満傾向については見た目にも明らかに変わってきており、運動機会の増加の効果が見受けられる。
- ・子どもだけでグラウンドを利用する機会は少ないだろうから、大人と一緒にできるスポーツイベントなど保護者を巻き込んだ取組が必要ではないか。

<スポーツ関係のご意見>スポーツ少年団指導者やスポーツ推進委員の方より

- ・不足していた屋外運動施設が整備され、スポーツ少年団の活動再開やファミリースポーツの推進など、町内における子どもたちのスポーツ活動の場が広がるとともに、これらを通じた家族交流の場としても期待できるとの声をいただいている。

事業計画推進による効果・変化

「ふれあいセンターなみえ運動公園」を整備したことにより、帰還後の子どもたちが安心して屋外スポーツを楽しむことのできる環境整備が進み、スポーツ少年団の活動再開や、当該施設を活用したサッカー教室の開催など、子どもたちの屋外での運動機会が増加し、体力が向上した(肥満傾向児童数が8.3%減少)。

令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末:1,332人)、こども園・小中学校に在籍している児童数はこども園49名、小学校38名、中学校24名(平成31年3月末 こども園:9名、小学校:21名、中学校5名)であり、徐々に子育て世帯の帰還、移住等が進んでいる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)

「ふれあいセンターなみえ運動公園」の整備と相まって、子育て世帯の帰還、移住等も進んでおり、スポーツ少年団やスポーツ推進委員、スポーツ協会など、スポーツ関係団体等と連携、協力し、ファミリースポーツなど、みんなで楽しめるスポーツイベント等を推進、拡充していくとともに、ベンチシェルターの設置など、暑さ対策を進めながら、当該運動公園の利活用を促進し、子どもたちの運動機会の確保と体力の向上を図っていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

個別事業等実績評価シート

令和5年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成31年度～令和3年度	交付対象事業費	442,757千円
市町村名	浪江町	実績評価実施時期	令和5年度	評価対象事業	C-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注1, 2)

震災等からの復興と復興計画等の一層の推進を図るべく、帰還後の子どもたちが安心してスポーツを楽しむ環境整備や子どもの運動機会の増加を図り、先人が大切に育んできたふるさと浪江で引き継がれるであろう子どもたちが遊べる環境にすること、子どもたちの体力向上させることを目標とし、子育て世帯の帰還の促進と定住促進を図る。

浪江町管内図 1

丈六公園

① 複合遊具

③ 木デッキ遊具

④ はしご渡り

② ローラー滑り台

⑤ ネットくぐり

【事業詳細】

(1) 事業概要
 帰還後の子どもたちが屋外で安全に運動できる場所として、「丈六公園」の整備を行う。
 そして、子育て世代が安心して帰町できる環境を整えるとともに、町外からの来訪者が立ち寄る場所としても整備する。
 以下の遊具を新設した。
 ①複合遊具、②ローラー滑り台、③木デッキ遊具、④はしご渡り、⑤ネットくぐり

(2) 事業の実施状況
 工事期間: 令和2年9月から令和4年12月まで
 供用開始: 令和5年1月
 令和5年3月に町内の園児を招待し、オープンセレモニーを行った。
 公園施設を更新したことにより、多くの親子連れなどが利用している。
 利用料は無料、休園日はなく、常時一般開放している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報
 令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末では1,332人)、小・中学校在籍児童・生徒数は小学校38名、中学校24名(平成31年3月末では各21名、5名)であり、不足していた屋外運動施設の整備に伴い、低下傾向にあった子どもたちの体力の維持・回復が図られ、徐々に子育て世代の帰還が進んでいる。
 ○肥満児童(町内小学校での割合)
 平成31年度: 16名中3名18.8%→5年度: 38名中4名10.5%
 ○体力テスト(町内小学校5年生でのA・B判定割合)
 平成31年度: 2名中2名100%→2~3年度: 各1名・3名中0名→4年度: 3名中3名→5年度: 9名中5名55.6%

(4) その他
 <有識者評価> 町の教育委員会と校長会で本事業の評価を諮ったところ、次のようなご意見を頂いた。
 ・肥満傾向については見た目にも明らかに変わってきており、運動機会の増加の効果が見受けられる。
 ・小学校においては、学習の一環として遠足、虫取り、体験活動等頻りに活用している。
 ・近隣に宿泊施設もあるので、例えばイルミネーションを実施するなど、宿泊施設の利用者の方々にも足を運んでもらえるよう周知度を高めてほしい。

事業計画推進による効果・変化

遊具の更新、運動できる屋外施設が整備されたことにより、自然にふれあいながら子どもたちの体力・運動能力の向上や、肥満傾向に改善が見込める。
 令和5年7月末現在、町内居住人口は2,089人(平成31年3月末: 1,332人)、こども園・小中学校に在籍している児童数はこども園49名、小学校38名、中学校24名(平成31年3月末: こども園: 9名、小学校: 21名、中学校5名)であり、徐々に子育て世代の帰還、移住等が進んでいる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)

当該施設のさらなるPRを行い、来園者の増加につなげるほか、公園施設の維持管理を適切に行うことで施設の長寿命化を図り、安全かつ継続的に利用できるように子どもの運動機会を確保していく。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。